

令和7年度 加印地区高等学校11校PTA(育友会)連絡協議会 議事録

開催日時 : 令和7年7月11日(金) 13時30分～

開催場所 : 高砂市文化会館 東館 多目的室 1

【会長校 : 東播工業高等学校 PTA】

司会 : 副会長 井上

受付 : 会長 増田(満)、事務局 増田(京)

記録 : 副会長 井上、阿賀、稲家

: 書記 新宮

: 生徒指導委員長 東田

1、開会のことば

東播工業高校 井上 喜恵 PTA 副会長より (司会)

2、会長校 会長あいさつ

東播工業高校 増田 満喜子 PTA 会長より

3、会長校 校長あいさつ

東播工業高校 藤川 弘起 校長より

4、令和6年度 事業および会計決算報告

令和6年度 事業報告

P3 松陽高校 野村会長より ⇒ 一同承認

令和6年度 会計監査報告

P4 松陽高校 魚井校長より ⇒ 一同承認

5、令和7年度 役員・理事承認

P5 東播工業高校 増田 PTA 会長より ⇒ 一同承認

6、令和7年度 事業計画案および予算案

P9 東播工業高校 増田 PTA 会長より ⇒ 一同承認

7、交通事故調査について (令和5年度4月～3月)

P10～P12 東播工業高校 増田会長より

・P10 事故総件数 → 6件減 (R5～R6)

5月は20件と事故件数が年間で一番多い、通学に慣れてきて、気が緩んできているかと思われる。

- ・ P11 事故発生時間帯 → 登校中が多いが下校中も増加。下校中 6 年度が 36 件で 12 件増加。事故の多くは、一旦停止や信号のない場所での斜め横断が原因ではないかと考える。
- ・ 関係対象物 → 車との接触が多い。自転車事故は並走中のタイヤ接触が原因ではないかと思う。
- ・ P12 学年別 → 1 年生は高校から自転車通学する子も多く不慣れかと思われる。

8、各校交通事故防止の取り組み状況について

順に発表

○ 松陽高校

指導頻度・箇所 : 毎月 7 名で正門と通用門の 2 箇所に分かれて指導を実施。9 月は生徒指導委員会全員参加で 5 か所に分かれて指導。

指導内容 : 前年度、先生方が礼儀挨拶や交通指導を実施し、自転車・歩行者の交通マナー指導をしている。他の生徒指導として、身だしなみや違反物、携帯電話などの指導も行われた。

実績 : 当初はベスト着用で活動していたが、車への認知を促進するため、横断旗を使用する形式に変更。車が丁寧に停止するようになり、子どもたちが急ぎ足で渡ることによって安全性向上を実感。

危険箇所 : 踏切付近（資料 p 15①）で車の横断が多く、生徒の渡り方に危険を実感している。

取り組み : 今年度も対策を検討していく。令和 7 年度 6 月 11 日、1 年生を対象に自転車交通安全教室を実施。

○ 高砂南高校

指導頻度 : 年 2 回（6 月・9 月）。

実施状況 : 第 1 回目は 6 月 20 日に実施。工事の影響で中止していた相生橋（資料 p 15①）の指導は、工事終了に伴い 9 月から再開予定。今回は 4 か所で登校指導を実施。

問題点 : 自転車の上でハンディファンを使用していた生徒がハンディファンを落とし、後続が詰まる混雑が発生。一部生徒がイヤホンを着けて登校していた。

取り組み : ハンディファンやイヤホン使用の安全面に配慮した指導を強化。

評価 : 生徒の挨拶がしっかりできており、全体的に良い印象を受けた。

○ 高砂高校

指導頻度・箇所 : 年 1 回、6 か所（相生橋西交差点を含む）で実施。

問題点 : 橋を西に渡った小さな横断歩道で（資料 p 14 ⑥）、生徒が信号を待つ際に密集する状況。西に向かう生徒がスピードを出すことで、密集

した生徒と交差し危険が生じる。一般自転車や歩行者も多く、さらに危険度が増す。自転車の並走、集団で固まった状態で走行することで白線をはみ出してしまい、出会い頭に車や他の自転車と接触しそうになる危険な場面が見受けられ気がかり。

取り組み : 立ち当番による挨拶と交通安全啓発を実施。年に一度交通講話を実施し、市内の交通事故状況や原因、自転車の点検、自転車保険の加入推進について啓発。学年別時差登校による混雑緩和の取り組みや、毎日の登校指導を継続。昨年度より自転車安全運転モデル校に参加し、自転車通学時のヘルメット着用推奨活動を展開。

○ 加古川北高校

指導頻度 : 年3回、学校とPTAが合同で実施。

実施状況 : 第1回目は6月4日に、学校周辺のT字路や交差点にて先生方と生徒指導役員7名が指導を担当。

問題点 : 時間帯により、近隣の中学生や通勤車両、予鈴前に急いで登校する生徒が重なる状況が発生。

取り組み : 声かけや交通マナーの指導を通じて、危険を防ぎ安全な登校を促進。次回9月と11月に交通安全指導を実施予定。

○ 加古川南高校

指導箇所 : 年2回先生方、生徒会、PTA役員合同で学校周辺5~6箇所を指導。

危険箇所 : 学校周辺の交通量が多い交差点(資料p13②)や河川敷。
(資料p13⑤⑥)

問題点 : 信号ギリギリでの横断や自転車並走が問題として認識。

評価 : 生徒ほぼ全員が元気にあいさつを返してくれた。

取り組み : 朝の登校指導と啓発活動を年2回HP上で保護者や生徒に向けて発信。9月19日の秋の登校指導を予定。

○ 東播磨高校

指導頻度 : 年2回(6月・9月)先生方と協力して指導。

危険箇所 : 生徒が一番よく通る北野新田付近の複雑に入り組んだ危険な場所。
(資料p16㊸)

取り組み : 急ぎ登校する生徒への声掛けや学校への報告、集会での指導強化。教習所による自転車交通指導を毎年実施。次回9月19日の第2回目の登校指導を予定。

評価 : イヤホン、スマホ使用の生徒はいなかった。

○ 県立農業高校

指導頻度・箇所 : 年3回、事故発生の多い場所で先生方と重点指導。

課題 : 元気故に危険な行動が見受けられる。

取り組み : 先生方中心に立ち当番を行っている。生徒一人一人への声掛けで交通安全意識向上を図る。本日警察からの交通安全講和を実施。PTA も声掛けしながら一緒に見守っていききたい。7月14日初回 PTA 合同立ち当番を実施予定。

○ 播磨南高校

指導頻度・箇所 : 年3回、4箇所先生方と合同で指導。信号のない交差点での安全確認。

危険箇所 : 信号のない交差点(資料 p14①)。当初は危険な場所だと考えられていたが、実際には車が止まり、生徒たちも注意して渡るため、安全性が高いことが分かった。

効果 : 先生が立ち当番されることで、生徒が先生の存在に気付き、態度を改めることがあるため、先生の目があることは良い効果をもたらしていると感じる。

課題 : スマホやイヤホン使用による安全面の懸念。

評価 : 挨拶の良好さ、生徒の交通ルール遵守。役員の参加率が高い。

取り組み : 危険な運転をする生徒への指導を継続。次回9月に登校指導予定。

○ 加古川東高校

新制度 : 令和7年度より PTA サポーター制度導入。

指導頻度 : (今年度)9月の11校一斉登校指導日に実施予定。(来年度～)年3回実施予定。

募集方法 : 教員、本部役員、+サポーターを募る。

課題箇所 : 信号のない交差点の学校ルールでの横断禁止箇所について、生徒への周知と指導を依頼。

実績 : ミラーカーブの改善を市役所に依頼し、見やすくなったとの評価。

取り組み : 10月に2年生の委員会が学校周辺のポイントを確認し、来年度のポイント見直しの参考として追加案を作成。広報誌やのぼりとブルゾン着用での啓発活動。自転車の信号待ち時、左側に一列になることで歩行者の妨げになる点を改善すべく、声掛けを計画。ヘルメット着用率が昨年度より増加したものの依然少なく、保護者から義務化の提案があり、協議を予定。引き続き生徒の安全な登校を見守る方針。

○ 加古川西高校

指導頻度 : 年2回(4月・9月)。先生方と合同で指導。

危険箇所 : 国道2号線加古川大橋東詰めの信号は(資料 p13①)、登校する高校生と出勤する車の交通量が多く、危険な場所となっている。信号変わり際の車の侵入や自転車の無理な横断が目立つ。

周知依頼 : 国道2号線加古川大橋東詰めの信号(資料 p13①)を利用する他校の生徒さんにも注意を促すため、各校で一声掛けていただきたい。

取り組み：「STOP THE 交通事故」のプリント配布で、一目で危険個所が分かるよう注意喚起。引き続き生徒の安全な通学を見守る方針。

○ 東播工業高校

指導頻度・箇所：年3回（6月・9月・2月）通学路7箇所で指導。

危険箇所：イヤホン、携帯、ハンディファンを持ちながら片手運転している生徒が多く、注意散漫となり非常に危険（資料 p16⑥）。

課題：集団になると斜め横断や後ろから来る車に注意を払わない例が多い。

改善案：朝早く家を出て余裕を持つことで、無理な横断や危険な行動が減少する。生徒や家庭での交通ルール意識の強化。自転車は車と同等と考え、学校だけでなく家庭でも呼びかけが必要。

評価：地域の方から、生徒が挨拶をしっかりとしていると好評。

取り組み：近隣住民との信頼関係を維持し、先生方と協力しながら自転車マナーや挨拶の啓発を継続。

《 質疑応答 》

加古川南高校より、加古川東高校が提案したヘルメット義務化について、次のような意見が述べられた。

- ・小中学生はヘルメットの着用が義務化されているが、高校でも全体として義務化されれば良いのではないか。
- ・子どもが多感な時期で「カッコ悪い」と感じるため着用を避けており、帽子型デザインも提案したものの、現状では使用していない。
- ・個別の学校対応ではなく、全体として統一されたルールを希望。

9、11校合同登校指導について

東播工業高校 増田PTA会長より

実施日：令和7年9月19日（金）

場 所：各校指導箇所

※実施日に登校指導ができない場合は各校ご都合の良い日に行ってください。

10、PTA会長情報交換

【 議題 ① 】

各校の自転車通学生の割合とヘルメット着用率について（加古川東高校より事前質問）

○ 松陽高校

自転車通学の割合：223名全員。

ヘルメット着用率 : 1年生3名。ヘルメット義務化は個人的に賛成。通用門の横断歩道を生徒が斜め横断をして危険。出来ればヘルメット着用で自己防衛してほしい。

○ 高砂南高校

自転車通学の割合 : 484人。69%。

ヘルメット着用率 : 2人程度。昔はヘルメットを着用して通学していたと思うが、いつの間にか着用しなくなったのはとどういう経緯で無くなったのか知りたい。

○ 高砂高校

自転車通学の割合 : 74.5%

ヘルメット着用率 : 15人程度3%。

○ 加古川南高校

自転車通学の割合 : 100%

ヘルメット着用率 : 600名中15名程度。2.5%

○ 加古川北高校

自転車通学の割合 : 全校生徒98%自転車通学。

ヘルメット着用率 : 632人中10人程度1.6%。

○ 東播磨高校

自転車通学の割合 : 全校生徒100%

ヘルメット着用率 : 0.5%に満たないくらい、10名程度でほぼ1年生。

○ 農業高校

自転車通学の割合 : 全校生徒824人中405人、約50%。

ヘルメット着用率 : 20名程度。

○ 播磨南高校

自転車通学の割合 : 発言なし

ヘルメット着用率 : 20名~30名程度。

○ 加古川東高校

自転車通学の割合 : 全校生徒960人中540人、56%が自転車通学。

ヘルメット着用率 : 約1割弱。

○ 加古川西高校

自転車通学の割合 : 数字として持ち合わせていない。

ヘルメット着用率 : 10%程度。

周りが着用していない状況では、家庭での指導のみでは困難。安全を確保するためには、ある程度の義務化によって全員が着用する方向性を示すことが必要ではないか。

○ 東播工業高校

自転車通学の割合 : 650名中647名、99.5%。

ヘルメット着用率 : 10人程度1.5%。ヘルメット着用に賛成。年頃の生徒にどのようにしたら着用してくれるか情報交換できたらと思う。

《 質疑応答 》

○ 加古川東高校より

ヘルメット着用を校則に加えることの難しさについては、こちらには詳しくわからない。義務化や校則として定めるには何が必要なのか、教えてほしい。例えば、教育委員会との調整が必要なのか、市や警察の協力が求められるのか、具体的に教えてもらえると有難い。

《 回答 》

○ 高砂南高校 岸部校長 : 警察がヘルメット着用の義務化を進める中、生徒指導協議会に依頼があり、ヘルメットの安全性が強調されている。具体的には、事故時の脳への損傷率が低下すると説明されている。一方で、義務化は罰則を伴う法律には至らず、任意性の高い運用となっている。

高校ではかつてヘルメット着用を校則で定めていたが、生徒の意見や髪型の問題を考慮し、着用を廃止した。ヘルメットの必要性が社会で議論されていない時期に、生徒の声を反映させた結果でもある。その後、警察から再度義務化の提案があったが、生徒の賛同を得ることが難しく、なかなか動き切れていなかったというところもある。

現在、高校では入学説明会や手引きでヘルメット着用の重要性を伝え、安全への配慮を促している。しかし、校則として定めるまでには至っておらず、生徒指導協議会では「義務化を進めるのであれば法律で強制すべきだ」という意見も出ている。

○ 東播磨高校 志摩校長 : 教育委員会から「ヘルメット着用を校則に取り入れる」提案があったが、学校側は「罰則規定のない努力義務を校則にするのは難しい」と反対。その代わりに、入学案内などにヘルメット着用を推奨する一文を記載する形で落ち着いた。しかし、全11校で統一的に校則に加えるのは、各学校の職員の意見が多様で調整が難しいため、現実的ではないとの認識がある。安全面からヘルメットは推奨されるが、一律な校則化は困難だとされる。

- 農業高校 村中校長：来年度から罰金を伴うようなスマホ、傘さしなど色々議論されている中でヘルメットに対しては努力義務のまま残されている。学校だけで強制するのは困難。警察の判断が必要になってくる。

【 議題 ② 】

未加入者に対する支援のあり方（加古川西高校より事前質問）

- 松陽高校
PTA・校長・事務局が協議し学年費負担への切り替え進行中。
- 高砂南高校
加入率 100%。
- 高砂高校
未加入者 3 年生 1 名（個別徴収実施）。来年度からの支援をどうしていくのか協議中。
- 加古川南高校
未加入者 1 年生 1 名（実費を個別請求し徴収）。目に見えない部分は未加入の方にも公平な対応。
- 加古川北高校
加入率 100%。他校の事例を参考に今後の支援方法を検討。
- 東播磨高校
2、3 年生 100%加入。1 年生 5 名未加入。PTA からの広報紙やサポーター募集チラシは PTA の活動を周知してもらうため全員に配布。体育大会の飲み物は今年度より廃止。
- 農業高校
未加入者 1 年生 3 名。加入したくない大半の方は役員になりたくないという理由、役員除外を承諾したらほとんどの方が加入。未加入者には、体育大会の飲み物や卒業記念品など個人にかかる配布物は実費負担の同意を得た。
- 播磨南高校
未加入者 1 年生 1 名。「非加入届」を提出した場合の支援制限について説明し、了承を得た。PTA 内での取り決めがないため、他の生徒と同じ扱いとした。非加入者増加時の対応や具体的な方針は未定。

- **加古川東高校**
未加入者 1 割。個別対応はなし。PTA からの連絡は、未加入者に対してもメールなどでお知らせが届くようにし、アピールしていきたい。加入有無による違いは、自賠責保険のみ。
- **加古川西高校**
100%加入。本格的な未加入者対応はこれから。
- **東播工業高校**
未加入の方にも公平な対応を意識。体育大会の飲み物・卒業記念品→今年度より学年費で対応。PTA 活動の広報物は全世帯に配布することで、加入促進を目的とする。

【 議題 ③ 】

未加入者の発生を前提とした学校への支援のあり方 （加古川西高校より事前質問）

- **松陽高校**
防災関係は全員への支援なので学年費で対応。来年度から未加者増加を考え、校長・会長・顧問で答弁し来年度に持っていく。
- **高砂南高校**
今後の変化に備えて、サポーターボランティア制度の導入が必要という意見が出ている。
- **高砂高校**
協議中で結論は出ていない。引き続き協議していく。
- **加古川南高校**
今後増加する場合は学年費への移行を視野に入れている。
- **加古川北高校**
平等としてしまうと加入者が納得しない可能性があるので、事前に加入者、当事者、学校と協議を行う。
- **東播磨高校**
全員に配らないといけない物は未加入者がいる 1 学年については間に合うよう協議する。出来るだけ学年費での対応を希望、今後学校と協議する。

○ **農業高校**

見えない部分は平等、個人に対する費用は実費徴収させていただくと案内。

○ **播磨南高校**

2、3年生には継続加入についてのアンケートを実施した結果、2名が退会するとの報告を受けた。その方々への対応も未定であり、今後の対応可能な範囲については引き続き審議していく。

○ **加古川東高校**

人的にはサポーター制で支援。生徒全員に対する支援は学年費で対応。どんどん減っていく過程で、PTAに加入したくないが、PTAを支援したい人がいると信じて、寄付金・リサイクル金で支援していただく。今年度より、校長・教頭・事務長含めた場で、来年度からのPTA予算を決めるため、年2回の予算会議を設けられている。

○ **加古川西高校**

今後も情報共有・意見交換を継続しながら検討予定。

○ **東播工業高校**

PTAは未加入者にも公平さを重視しつつ、負担の配分について検討中。今年度から体育大会の飲み物や卒業記念品費を学年費で負担をお願いした。広報誌は未加入者にも配布し、PTAの意義を伝え、参加を促進。全ての生徒が、安心して学校生活を送れる環境を目指すには、学校全体で子供たちを支援する新たな仕組み検討が必要と認識。

◀ **質疑応答** ▶

加古川西高校より未加入者の扱いや学校支援のあり方についての意見と感想が述べられた。

西高では、本格的な計画はこれからの段階だが、皆様からいただいたご意見を参考に進めていきたいと考えている。また、近隣の学校における未加入者の扱いや学校支援のあり方については、それが学校の特色として許容範囲に収まるのが望ましいと思っている。しかし、極端な違いがある場合、子供たちの教育環境にとって好ましくない可能性もあるため、今後も情報共有をしながら、より良い学校とPTAの在り方を模索していきたい。本日は、この場をお借りしてお願い申し上げますとともに、ぜひ皆様のご意見をお聞かせいただければと思う。ありがとうございました。

【 議題 ④ 】

役員のサポーター制について・募集方法・参加率・問題点・導入して良かった点
(松陽高校より事前質問)

○ 加古川東高校

募集方法 : メール、手紙の2次元コードから参加してもらう。

参加率 : 制服リサイクル→募集10名に対し7名。和菓子販売→募集14名に対し8名。今後人員の申し込みが0名の時でも活動できるようフレキシブルに計画していきたい。

反省点 : サポーター募集がイベント開催日に近かった為、準備をする為に本部役員の方に負担が大きくなってしまった点。この経験を生かし、マニュアル化して次に生かせるようにしたい。

導入して良かった点 : 加入率が上がっている(くじ引きがない)。希望者が集まったの行動なので不満が少ない。PTAに加入していない方も参加してくれる。

本部役員の数 : 1学年4名以上、合計12名(募集で参加)。

総会はどのような形で行われているか : 対面形式の総会はなし(デジタルでのみ)

○ 東播磨高校

募集方法 : R6からサポーター制導入。行事の1ヶ月前にメール(スタディサプリ)、プリントでの募集。行事ごとにプリントにQRコードを載せ、そこから、学年、名前、生徒名を記入。5月頃に年間行事予定を配布している。

参加率 : 1つの行事で平均約5名のサポーター+本部役員数名で十分活動できるようにしている。

良かった点 : 役員選出の準備をしなくてよくなった=本部役員の負担が大幅に減った。保護者も負担減、時間の縛りが無いので来れる時間に来て30分だけでも活動してもらっている。最後までいなくても大丈夫。

問題点 : 本部役員の人数の確保が難しい点(アンケートで募集)。今後の課題。

サポーターを募集した時、参加人数が0の時の対策 : 今まで0は無いが、0の時は中止も考えている。本部役員で対応できる範囲のみの活動。

本部役員の数 : 10名(3年生2名、1年生8名)。本部役員の任期は1年間。

総会はどのような形で行われているか : 今年は対面での総会を再開、参加者約30名弱。

【 議題 ⑤ 】

新入生と在校生のPTA加入状況や勧誘方法とその効果について
(農業高校より事前質問)

- **松陽高校**
加入状況 : 1年生 42名非加入。3年生 1名非加入。
勧誘方法とその効果 : 入学者説明会後に会長が実施。同意書回収日(入学式)に、PTAに関する問い合わせで保護者が集まり、「PTAに入らなくてもいいのか?」という声が広がった。一部の保護者は説明会に参加しておらず、説明が十分伝わっていなかった可能性がある。対応が難しく、学校や事務局と協力して来年度の対応方法を検討する必要があると感じた。また、PTA加入に否定的な保護者には説明が響かないと判断し、これ以上の対応は控える決定がされた。

- **高砂南高校**
加入状況 : 100%加入
勧誘方法とその効果 : 合格者説明会でアンケートを配布し説明。4名の質問者には前会長が熱意をもって会費の使い道、PTAの必要性を説明し、全員納得して入会。

- **高砂高校**
加入状況 : 3年生 1名退会。1、2年生 全員加入。
勧誘方法とその効果 : 新入生には入学前にPTA、後援会の活動内容を載せた加入案内文書を配布。来年度以降状況によってどうなっていくかわからないので、それまでに詰めて話し合っていきたい。

- **加古川南高校**
加入状況 : 1年生 1名非加入。非加入届に連絡先の欄を設けていなかったので連絡できず、来年度からは連絡先の記入欄を設ける。
勧誘方法とその効果 : 今年から合格発表の日に、入会届とともに、PTAの目的や会費の使途、委員会活動、各委員会の方から役員をしてよかったことなどを記載したPTA説明資料を同封し、PTAの必要性をアピールした。再度入学説明会でPTA説明会後、入会届を本部役員で回収した。また学校のHPや保護者一斉メールを活用し情報発信をしている。

- **加古川北高校**
加入状況 : 100%加入
勧誘方法とその効果 : 入学説明会で、保護者にその場で入会届を記入・提出してもらい、本部役員が回収・確認した。加入を希望しない方には、非加入による制約事項を記載した同意書を提示し、会長らが個別に説明・話し合いを実施。役員を務めたくないという理由のみで加入を拒否した方には、今回は免除を認めた。結果として、全員が納得して入会した。こちらについては今後議論したい。

○ 東播磨高校

加入状況 : 1年生5名未加入。2、3年生100%加入。

勧誘方法とその効果 : 合格者説明会でPTAについての説明を約5分間行い、役員決めが不要であることを強調した。1年生の加入届の締め切り時点で約70名が未提出で、その意向を把握するため、未加入の場合は未加入届を記入してもらう対応を取っている。未提出者にPTAの活動内容や資金の使用目的を詳細に記載したプリントを配布し、先生方の協力で最終的に65名が加入したが、未加入者には個別の対応は取っていない。また、広報誌は年1回発行され、そのデジタル版をHPに掲載するかについて本部役員で現在議論している。

○ 農業高校

加入状況 : 3名未加入。

勧誘方法とその効果 : 最初40名PTAへの加入を断られた40名に対し、事業内容や役員が強制でないことを丁寧に説明した結果、多くの人が加入しませんでしたと転じていただいたという経緯があった。

情報提供のお願い : PTAの活動内容を正しく伝える方法を模索しており、例えばオープンハイスクールでなにか活動されているだとか、PTA加入の案内をするタイミングについての情報提供をお願いしたい。

○ 播磨南高校

加入状況 : 1年生1名未加入。2、3年生2名退会。

勧誘方法とその効果 : 入学説明会の時に本部の方から説明。加入しないという方は毎年数名いる。その方には会長の方から個別に連絡し対応。役員がしたくない方が大半だったが了承し加入。

○ 加古川東高校

加入状況 : 2、3年生93~94%。1年生83%。

勧誘方法とその効果 : オープンハイスクールについては特に活動はしていないが検討中。勧誘方法については入会届を合格者説明会后に記入してもらうため、説明会が一発勝負という現状。説明会で配布する封筒にPTA紹介のチラシの同封を検討中。役員決めがないサポーター制度を強調し、会費の使い道であったり、今年度保護者アンケートを取りたいと思っている。その結果をチラシに載せ、満足度を紹介することで合格者説明会の場でPTAの魅力を伝えられたらと思う。

○ 加古川西高校

加入状況 : 加入率100%。

勧誘方法とその効果 : 意識して勧誘活動は行っていないが、オープンハイで保護者の相談に応じる場を設けている。文化祭で模擬店を出店し、売り上げは生徒会に寄付している。育友会のH.Pを設けており、活動の報告をその都度し

ている。合格発表の封筒に QR コードを掲載したチラシを入れ育友会活動を見てもらう取り組みをしている。合格者説明会で活動内容の説明をしている。

○ 東播工業高校

加入状況：1年生2名未加入。2、3年生全員加入

勧誘方法とその効果：新入生説明会で、口頭での説明と、PTA とクラブ振興会の日頃の活動内容や会費の使途について、約4分の簡単な紹介動画を上映した。効果として、動画にすることで視覚的情報も加わり、より理解しやすくなったと感じている。加入届は、物品販売日に窓口を設け、一人ひとり手渡しで受け取り、加入しないという方には、会長から直接話し合いをさせてもらい2名を除き全員加入していただけた。オープンハイは今のところ何もしていないが、今後PTAで何かできる場があればしていきたい。

《 質疑応答 》

○ 農業高校より

H.P を使われていた加古川西校さんと加古川南校さんは H.P でも活動を紹介されているということですが、運用は PTA さんがされているのか？また更新や H.P の構築とかはどなたがされているのか教えていただきたい。

《 回答 》

○ 加古川西高校

更新作業自体は事務局さんをお願いしている。内容チェックはそれぞれの掲載内容に応じて各担当部署で確認をしていただいて最終全員 OK が出たら公開という流れ。

○ 加古川南高校

PTA で掲載する書類を作成した後、PTA 事務局にデータを送り、そのデータを H.P の担当先生に渡してもらって掲載していただくという流れ。

11、閉会のことば

加古川西高校 安立 圭一 育友会 会長（副会長校）